

SFC入試で、的中!!

今年も**慶應SFC2013年度入試**で**予想問題が的中**しました！ 福沢諭吉が『福翁自伝』で自らの青春時代の勉強ぶりを回想している場面（適塾でのエピソード）について、夏期講座で扱ったのとほぼ同じ箇所（数ページ違い）が出題されています。

2013年入試 慶應義塾大学環境情報学部 小論文 資料9

……読書に草臥れ眠くなって来れば、机の上に突っ伏して眠るか、あるいは床の間床柱を枕にして眠るか、ついぞ本当に蒲団を敷いて夜具を掛けて枕をして寝るなどという事は、ただの一度もしたことがない。その時に初めて自分で気が付いて「なるほど枕はない筈だ、これまで枕をして寝たことがなかったから」と初めて気が付きました。これでも大抵趣きがわかりましよう。これは私一人が別段に勉強生でも何でもない、同窓生は大抵みなそんなもので、およそ勉強ということについては、実にこの上に為ようはないというほどに勉強していました。（福沢諭吉『福翁自伝』「塾生の勉強」）

2012年夏期講座 SFC受験対策講座 小論文 第1講

……大切な黒田様の蔵書を毀すことが出来ない。毀して手分けて遣れば、三十人も五十人もいるから瞬く間に出来てしまうが、それは出来ない。けれども緒方の書生は原書の写本に慣れて妙を得ているから、一人が原書を読むと一人はこれを耳に聞いて写すことが出来る。ソコで一人は読む、一人は写すとして、写す者が少し疲れて筆が鈍って来ると直に外の者が交代して、その疲れた者は朝でも昼でも直に寝ると、こういう仕組にして、昼夜の別なく、飯を食う間も煙草をのむ間も休まず、一寸とも隙なしに、およそ二夜三日の間に、エレキトルのところは申すに及ばず、図も写して読み合わせまで出来てしまつて、紙数はおおよそ百五、六十枚もあつたと思う。（福沢諭吉『福翁自伝』「黒田公の原書を写し取る」）

